

暖房時の湿度環境と高齢者の乾燥感との関連

○五十嵐由利子*) 高橋啓子**)

(*新潟大学 **愛知江南短大)

目的 これまで高齢者居住施設の温熱環境の実態調査を行ってきたが、多くの施設で冬季暖房時の低湿環境が問題となっていた。一方、高齢者の多くは一般住宅に居住しており、各種暖房器具の普及により住宅の温度環境はかなり改善されてきていると考えられるが、湿度環境の実態については明らかにされていないことが多い。そこで本研究では、高齢者の身体周囲温湿度の実態測定により、暖房方法と暖房時の乾燥感等との関連を検討することを目的とした。

方法 新潟県5戸(5名)、愛知県6戸(6名)を対象に、2000年2～3月に実測調査を行った。対象住戸はすべて戸建て住宅で、1人を除いて日中の居室(居間)と寝室は別であった。室内の温湿度測定は、居間と寝室の2室とし、高齢者の身体周囲温湿度は、肩に温湿度センサーを取り付けた実測用ベストを着用することによって測定した。また、在室時は、暖房時間、温冷感、乾燥感などを記録することとした。

結果 1)暖房方法に地域差が見られ、地域の気候条件や住宅性能の影響が推測された。2)室内の相対湿度は、高齢者居住施設ほど低湿環境ではなかったが、身体周囲の相対湿度はやや乾燥している例も見受けられた。3)暖房時の乾燥感を訴える人はほとんどいなかった。どの程度の湿度環境が乾燥感に影響を及ぼすかの研究が、今後の課題である。

なお、本研究の一部は(財)住宅総合研究財団研究助成金によって行われた。